

「剣道王国熊本」発展に尽力

石原勝利さん死去

86歳



「昭和の宮本武蔵」と呼ばれ、「剣道王国熊本」の発展に尽力した元県剣道連盟会長で名誉顧問の石原勝利（いしはら・かつとし）

さんが10月30日、呼吸不全のため熊本市内の病院で死去した。86歳。葬儀は近親者で済ませた。喪主は妻アヤ子さん。自宅は熊本市健康本町。

石原さんは済々黌（旧制）在学中に全国中学大会、明治神宮大会中学の部で連覇を飾った。東京体育専門学校（現筑波大）を卒業後、教職の道へ。指導本剣道連盟功労賞。

き、全日本都道府県対抗大会団体2連覇、全国教職員大会個人3連覇、世界選手権団体優勝などの戦績を誇る。

1983年に日本剣道界最高位の範士八段に合格。92年から11年間、県連盟の会長を務め、熊本国体総合優勝、全国高校総合体育大会「ひのくに新世紀総体」

男女優勝など県勢が活躍。2000年には会長旗争奪大会を新設するなど熊本の剣道の普及、発展に貢献した。02年に熊日賞。03年旭日双光章。05年全日本剣道連盟功労賞。

寡黙な「昭和の宮本武蔵」

評伝・石原勝利さん

「若手に気力で負けないように心掛けています」と話していた石原勝利さん
=2003年10月

熊本の剣道界の発展に尽くされた石原勝利さんが10月30日朝に亡くなられた。悲報は3日後の1日、夜遅く自宅に飛び込んできた。ここ数年、体調を崩されていたので心配していたが、ついに恐れていたことが現実となってしまった。

方針。試合中でも技などについての口うるさい指示はなく、「落ち着いて攻めろ。相手がこらえ切れず出てくるのを待て」など精神的なアドバイスが多かった。

大きな声で笑われた姿もあり見たことがなかった。ただ、先生がこれまで2度だけ、顔をしゃくしゃくにして喜ばれたことがある。3年生の時、長崎で行われた九州大会団体戦で、苦戦の末に、佐賀北高を破って優勝した時だ。良かった。よくやった」と肩をたたいて、選手をほめられた。

2度目は、世界選手権団体優勝後、熊本に帰る列車を東京駅に見送りに行った時だ。私は当時大学生。「金メダルは見せようか」と、ニコニコしながらバッグからメダルを取り出された。初めての世界大会での金メダル、本当にうれしかったのだろっ。

教職を退職し、剣道も現役を退かれてからは、剣道の普及、指導に専念された。1992年から熊本県剣道連盟会長の要職に就かれ、熊本で開かれた2巡目国体、全国高校総体を成功裏に導かれた。大会や式典でお会いすることがあったが、以前の寡黙な先生からは変わっていた。社交的になられ、あいさつやスピーチも流れるような口調で話されていたのが印象に残る。顔を合わせるたびに、あのかすれた声でど



亡くなられた時は手に竹刀を持っておられたやに、漏れ聞いた。昔の懐かしい仲間と竹刀を交えておられるのだろっか。（熊本日日新聞社監査役・郡祐一）